



池田 良穂 (大阪府立大学 名誉教授 客員教授)

新クルーズ学

▶44◀

大型カーフェリーの新燃料消費はほとんど増えません。2月の本コラムでは名門カーフェリーのCO2排出はほとんどな

「フェリーきょうと」を紹介しましたが、3月末にはその姉妹船「フェリーふくおか」が大阪南港―新門司間に就航しました。全長は195㍎で、瀬戸内マックスと呼ばれる瀬戸内海で夜間航海ができるぎりぎりの長さの大型船です。

船は大型化するほどエネルギー効率がよくなりますので、トラックを陸送するのに比べるとCO2の排出量が80%以上削減できますし、乗客は軽いので何人積んでも船の

いと考えられるので、究極のゼロエミッションの人の輸送機関とも言えます。

4月からは宮崎カーフェリーの神戸―宮崎の間にも、新しい大型のカー

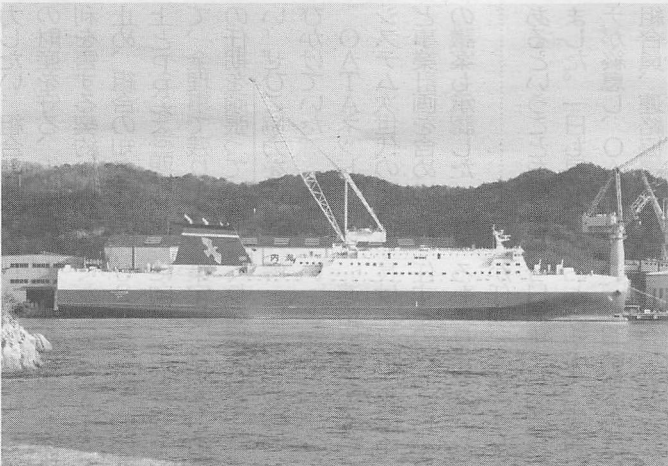
新造フェリーが続々

170㍎から195㍎に大型化します。連日のように「新船登場」のテレビコマーシャルも流れており期待が高まります。

フェリーが登場します。船名は「フェリーたちちほ」で、4月15日に就航します。こちらは約25年ぶりの代替で、総トン数は1万1900トから1万4200トに、全長はの瀬戸田工場に進水式を迎えます。この式典には造船でかけてみてはいかがでしょうか。登場する新造フェリーは、いずれも省エネ技術を駆使したエコな船で地球環境時代に相応しい移動手段と言えます。また、フェリーは他の交通機関に比べて空間が広くゆったりとしているのが最大の特徴です。

この航路は2隻のカーフェリーで運航され毎日4便出ており、小豆島のしながら楽しむ手段としてカーフェリーが利用されておりクルーズフェリーと呼ばれています。日瀬戸内国際芸術祭への旅にも便利な交通機関で本で登場する最近のカーフェリーも確実にクルーズフェリー化しており、高松まで4時間半の単なる移動手段からは脱皮した、移動とレジャーを融合させた新しい旅の形を提供するようになってきています。

高松を結ぶジャンボフェリーも新造船を建造中です。秋の瀬戸芸には、ぜひジャンボフェリーの新しい



向島の内海造船で完成間近の「フェリーたちちほ」

エコな船でクルーズ化進む